

平成27年度 第1回 和光市協働推進懇話会 会議録

日 時： 平成27年8月11日（火） 9時30分～12時00分

場 所： 和光市役所 6階 602会議室

委 員：

学識経験者	◎平 修久（聖学院大学政治経済学部学部長） ○谷本 有美子（公益社団法人神奈川県地方自治研究センター） 庄嶋 孝広（市民社会パートナーズ 代表）
市民団体を代表する者	竹村 幸子（和光生ごみ市民会議）
公共的団体を代表する者	萩原 尚（和光市自治会連合会） 野川 希代子（和光市社会福祉協議会）【欠席】
和光市協働推進庁内調整委員会	前島 祐三（和光市政策課）【欠席】
和光市協働推進ワーキング	中岡 貴裕（和光市生涯学習課）

◎会長 ○副会長

事務局：市民環境部 本間・市民活動推進課 内田・中川・新坂・大竹

傍聴者：17名

1 委嘱式

任期は委嘱された日（本日）から平成28年3月31日までとする。

2 平成26年度実施 協働提案事業報告会について

■報告会について

平成26年度に実施した協働事業提案制度に基づく事業について、和光市協働事業提案制度実施要綱第13条に基づき、報告会を開催した。

□発表時間：30分程度（発表10分、質疑応答20分）

□発表方法：任意形式

□発表内容

事業名	団体名	担当課
わこう郷土かるた(わこうっちかるた)作成事業	和光市商工会青年部	教育委員会事務局 生涯学習課
和光市湧水環境調査事業	NPO 法人和光・緑と湧き水の会	市民環境部 環境課

■わこう郷土かるた(わこうっちかるた)作成事業 質疑応答

【谷本委員】当初予算から超過した理由を教えてください。

【団体】市からの委託金は決まっておりますので、超過分は協賛金等を多く集め対応した。

超過の要因は読み札を両面印刷にした為である。理解が更に深まるよう、読み札の裏面に、

解説を入れた。また、当初予定に無かった絵札の原画展を開催したためである。また、読み句と絵札の募集を当初は一度にする予定だったが、別々に行ったため、その分チラシの印刷代がかかった。

【谷本委員】協働事業としての成果があれば教えて欲しい。

【団体】今回、私たちの呼びかけで多くの協賛金が集まったことから、和光市を良くしたい、和光市を多くの人に知って欲しい、と思う市民が多くいることが分かった。また、朝霞地区4市の商工会青年部に対してかるた作成の事例発表をする予定であり、郷土かるたづくりが近隣市にも広がって行けば良いと考えている。その他には、秋に第2回かるた大会を実施する予定。新しく和光に来た人たちにもできるだけ多く和光市のことを知って欲しいと考えているので、これからもその様なイベントを企画して行きたいと思っている。

【庄嶋委員】かるた選定委員の中に、新倉小学校おやじの会のメンバーがいたとのことだが、おやじの会等の他団体と関わりを持つことは、良いことだと思う。かるたやかるた大会をきっかけに、他の市民団体とのつながりや、市民同士のつながりはできたか。

【団体】かるたの貸出要望を受け、ある団体に貸し出した。また、市内のあるエリアの団体が、わこ郷土かるたを拡大し、新しく出来た公園でジャンボかるた大会をするという話がある。今後も様々なつながりをつくって行きたい。

【庄嶋委員】わこ郷土かるただけの特別なルールがあるとのことだが、子どもたちが事前に練習会をしたり、ルールを学ぶ機会があったか。

【団体】わこ郷土かるたは、群馬県の上毛かるたを参考にルールを決めた。役札は、「わ・こ・う」や「や・ま・と」等、和光市ならではの札を集めると点数が多くもらえるよう特色を出した。ルールは商工会青年部のホームページに掲載した。

【平委員】かるたセットの中に含まれている「わこ郷土かるた探険マップ」は、面白いアイデアだと思う。このマップについて、学校と連携を取ったか。また、今後取る予定はあるか。

【団体】今回は、生涯学習課文化財保護担当と連携を取り、事業を実施した。しかし、校長会でチラシ配付等のご協力をお願いしたこともあり、かるたを校内の壁に貼り、展示してくれた学校もあった。出来れば次年度以降、学校とも連携を取りたい。今後、マップの場所に行ってみよう！というツアーの企画もしたい。

【庄嶋委員】まち歩き等をテーマに活動している団体と協力して実施すると良いかもしれない。

【谷本委員】かるたを欲しいという要望がかなりの人からあるということが分かった。団体としては、かるたを販売したい、という意向はあるか。

【団体】現在、画像をインターネットで公開し、ダウンロードした画像を型紙に貼って手作りのかるたを作れるようにしているが、本物のかるたが欲しいという要望が多い。販売はぜひしたいと考えている。アンケートでも1,000円程度ならば購入したい、という回答が多いが、原価は約2,500円。ただの販売ではなく、ふるさと納税の返礼品として扱ってもらえれば、等と考えている。

【谷本委員】かるたをただ販売するのではなく、色んな人たちが関われるような仕組みをつくって欲しいと思う。

【竹村委員】高齢者対象のかるた大会も実施してはどうか。子どもだけでなく、大人の郷土意識も向上すると思う。

【団体】良いアドバイスをいただき、ありがたい。現在、まちかど健康相談室（高齢者等の孤立予

防や世代間の地域交流を推進するための場所として、和光市が市民団体に運営を委託中。)の運営を受託している団体の代表者が今回選定委員のメンバーにおり、まちかど健康相談室でもわこう郷土かるたを取り入れている。他にも、取り入れてもらえるような働きかけをして行きたい。

【谷本委員】担当課からこの事業について一言お願いしたい。

【生涯学習課】私たち行政だけでは出なかったアイデアであり、大変有意義な事業だった。また、古い和光市を伝える素晴らしいツールが出来たと同時に、この事業により古くから和光市に住んでいる市民と新規住民の接点ができたと思う。

■和光市湧水環境調査事業 質疑応答

【平委員】担当課に聞きたい。都市開発の際に、守らなければならない箇所が明確になったか。また、報告書を今後どのように活かすか教えて欲しい。

【環境課】湧水は、緑地内にあることが多い。ふれあいの森として保全している緑地もあるが、まだの部分もある。今回の報告書により、その重要箇所が分かってきた。開発と保全の関係には難しい側面もあるが、今後、ふれあいの森を担当する都市整備課と様々な保全の方法を検討して行きたい。

【中岡委員】専門性も高く、素晴らしい報告書が完成したと思う。今後、ある時点の記録として重要な資料となるのではないか。この報告書の発行部数と、利用希望者はどこで閲覧することができるか、を教えて欲しい。また、製本する必要があるかもしれないが、国会図書館に納本すれば、全国的にも閲覧されることが可能となる。

【団体】カラー印刷で、200部印刷した。市立図書館やコミュニティセンター、地域センターに届け、閲覧できるようにしてもらっている。また、環境課、市民活動推進課(協働推進センター)、市内各学校等にも配付した。

【谷本委員】丁寧な調査、たいへんお疲れさまでした。協働事業実績報告書の中で、「ボランティアのやりがい担保する必要がある。」との記載があり、本日の報告でも、謝礼については外部の講師だけでなく、団体の会員が講師をした場合も支払えるようにして欲しい、との意見があった。

【団体】15年程前に実施した調査をもとに今回協働事業による調査を実施したということで、それにより得られた知識や専門性等も多くあった。自団体の勉強が目的の場合には、外部講師に依頼する。しかし、今回のように和光市における調査報告を行うフォーラムでは、内部講師の謝礼を認めてもらえることで、内部講師を採用することができ、事業の広がりが生まれて行くと思う。

【谷本委員】団体会員の皆さんは、活動を続けていくうちに専門的な知識やスキルを身に付けていく。それらのスキルを活用する際に、謝礼の支払い等により専門性が認められれば、団体としての幅が広がっていくものと思う。

【谷本委員】担当課に聞きたい。今後、災害時の有効利用の可能性はあるか。

【環境課】市内に99ヶ所ある井戸の持ち主にアンケート調査をする前に、危機管理室と調整をし、聞き取り項目を考えた。結果は危機管理室に提供した。災害時の井戸利用について、井戸の持ち主と協定を結んでる他自治体もあり、和光市での利用を求める声もある。利用に関

しては、予算等の課題抽出を含め、危機管理室で検討しているところである。

3 会長選出及び副会長指名について

【事務局】和光市協働推進懇話会設置要綱第5条に、「懇話会に会長及び副会長を置き、会長は委員の互選により選出し、副会長は委員の中から会長が指名する」とある。皆さんから自己紹介していただいた後、推薦等があったらお願いしたい。

【一同】自己紹介

【竹村委員】和光市の協働推進にご尽力されている平先生にぜひ、お願いしたい。

【一同】賛成。

【平会長】よろしく申し上げます。副会長の指名については、会長が指名権を持っている。副会長は、協働に理解の深い谷本委員にお願いしたい。

【谷本委員】よろしく申し上げます。

■決まったこと

- ①平委員を会長とする。
- ②谷本委員を副会長とする。

4 事業評価について

■事務局より流れを説明

「協働提案事業 評価要領」に基づき評価を行なう。

（協働事業中間報告書・協働事業実績報告書及び本日の事業報告会を基に、各委員は協働事業評価シートに評価を記入する。）

【平会長】時間の問題もあるため、懇話会は意見交換の場とし、評価シートは各々が後日記入、提出してはどうか。

【一同】異議なし。

事業名：わこう郷土かるた(わこうっちかるた)作成事業

団体名：和光市商工会青年部

担当課：教育委員会事務局 生涯学習課

【庄嶋委員】当初の事業予定から1ヶ月程遅れた、との報告があったが、これはより効率良く事業を進めるために必要なことであった。一方、協働事業実績報告書で担当課から、「担当課の年度事業スケジュールが決まっているところへ協働事業を入れ込むことになったので、協働事業の決定時期をもう少し早めて欲しい。」との意見があった。協働提案制度全般についての話になるが、この制度は、市の事業計画にそもそも位置づけられているものを、市民から提案されたもっと良い事業に振り替えて実施しよう、というものである。そういう意味で考えると、担当課に別に負荷がかかってしまう、というのは本来の目的とは異なり問題があることでないか。

- 【庄嶋委員】アンケートを実施したことで漠然とではなく、「わこう郷土かるたを知り、和光市に対する郷土愛が深まった」人が多くいたことが分かった。アンケートの実施により、事業効果を確かめられたことを評価する。
- 【谷本委員】当初想定していたよりも、反響が大きかったことが分かる。市民活動の醍醐味はここにあるのではないか。また、市民等による、かるたの選定委員会を組織し、委員会の意見を取り入れたりと、より良いものを作り上げる工夫をしたことは素晴らしい。その都度事業を検証し、変化を持たせながら事業を進めて行ったことを評価する。作っていくプロセスの中で、より良いものを作り上げていく工夫をしていくことは、今後の協働事業の見本となると思う。
- 【竹村委員】読み句の選考は、湧き水等、後世に遺したいものを念頭に置き、実施したか。
- 【団体】念頭に置き選定した。湧き水で言えば、何種類かの湧き水や池等の固有名詞が読み句となっている。また、応募者の参考となるよう、約30年前の「和光市文化かるた」をホームページに掲載した。
- 【庄嶋委員】協働事業を通して、団体間のつながりが広がるととても良い。かるたという「ツール」により、これから様々なつながりの形成が期待できる。今後は、つながりの形成を意識した展開を望む。
- 【谷本委員】当初の予算内で協働事業を実施しようとする団体が多く見受けられる。今回の事業のように、より良いものを作るために、市からの委託料を超える部分に対し、団体が独自で協賛金を募集をする、というのは他団体の見本となるケースである。団体側が共感と信頼を得ていないと、今回のように多くの協賛金は集まらない。それらを得ていくプロセスを他の団体に伝えて行って欲しい。
- 【竹村委員】その意見に賛成である。協働事業を実施している団体側としては、その方法を市と相談しながら考えて行きたい。
- 【谷本委員】今後の広がりが期待出来る事業である。その際の行政の協力体制を、次のステップとして模索して行って欲しい。

事業名：和光市湧水環境調査事業

団体名：NPO 法人和光・緑と湧き水の会

担当課：市民環境部 環境課

- 【庄嶋委員】成果物である報告書だが、カラーで見るとたいへん分かりやすく、読みたいという気持ちになる。当初、白黒印刷の予定であったが、プリンターを手に入れカラー印刷に変更する等、柔軟な工夫をした部分を評価したい。
- 成果を測る為のアンケート等は今回実施していない。このような事業の場合、年月が経ってから評価されることが多いので難しいが、今回は市と実施している事業なので、成果を測るものがあると良かった。例えば、フォーラムに参加した人から、調査結果の活用方法のアイデアや評価等をアンケートにより聞き取ったりすると良かったかもしれない。
- 【竹村委員】市民に対し、この調査の効果をどのように与えるかが大切だと思う。他団体や、市の他担当、例えば防災担当等と協力し、調査結果を役立たせられると良い。
- 【団体】この調査は、今後湧水や井戸をどのように役立たせることができるか、というあくまで予

備調査であると考えている。今後、防災等の目的で活用する際は、この予備調査をもとに、本格的な調査をして欲しい。

【中岡委員】現在担当している業務でも、過去に作成された報告書は資料として大変役立つ。今回の報告書も、ある時点の記録として後世にまで残るものになると思われる。このような専門的な報告書を作った、ということをも評価できる。

【谷本委員】中学生ボランティアの参加等、事業の広がりがあったことが分かる。
また、個人の敷地内に入り井戸調査をするのは、団体独自では困難なことである。行政との協働事業だからこそ、井戸の所有者も安心できたのだと思う。それぞれの特性を活かした役割分担をしており、大変評価できる。

【庄嶋委員】協働事業実績報告書（4）協働基本原則 ⑥情報公開の原則 についてだが、担当課の回答が、「取り組めなかった」となっている。理由を聞かせて欲しい。

【環境課】どの個人がどういう井戸を所有しているかというリストを作成していたが、個人情報保護の関係で、団体に対してそのリストを公開しなかった。

【団体】リストが公開されなかったことに対し、理解している。事業実施の上で問題も生じなかった。

【庄嶋委員】この報告書は団体、行政それぞれの特性を活かした協働事業であったこそ完成したものであると思うし、このような報告書が完成したことが素晴らしい。一方で、専門性が高いため、専門的な知識が無い人が全てを理解するには難しい内容でもある。学校教育の観点から活用する他に、他のジャンルの市民団体や専門的な知識が無い人に対しても、このような素晴らしい資源が市内に残っていることや、それらを残していく大切さを分かりやすく伝えていって欲しい。

【平会長】調査を通し、地域の人たちとの交流があった、との報告があったが、これだけの回数を調査すると、それを見かける地域の人たちも興味関心を持つことがあり交流が生まれたのだと思う。これは、市民活動団体でなければ出来ないことで、大変評価できる。

団体へのお願いだが、この調査結果を活用するために、防災関係の市民団体と一緒に環境課や危機管理室、つまり和光市を後押ししていただきたい。

【竹村委員】市民の意志により、自分たちのまちについて、このように丁寧で専門的な報告書を完成させたことはとても素晴らしい。水は市民の生活と密接な関係がある。今後は、この調査結果をどう活かすのかを考えることが大切。

【萩原委員】調査結果をそのままにしてしまってはもったいない。これからの市民たちにもこの結果を知ってもらうために、図書館等で保管、閲覧できるようにしておくことが大切だと思う。また、5年後、10年後にどのような変化があったか、を調査する必要があると思う。

5 その他

■事務局から

（現在実施中の協働提案事業について）

□みんなで子どもたちを守ります！～下新倉小学校学区のフィールドワークと安全マップづくり事業《市民提案》

- ・10月にフィールドワークを予定。

□越後山パークライフプロジェクト《市民提案》

- ・事業実施中。

□和光市運動場有効利用計画《行政提案》

- ・講座実施中。

*懇話会委員の事業見学について

事業の日程を随時担当から連絡する。

(今後の予定について)

□今年度の懇話会は、第2回を11月、第3回を2月に予定している。